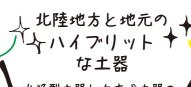
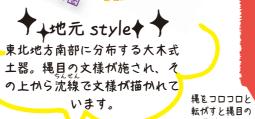


縄文時代には、各地で地域色の濃い土器、いわばご 当地土器がつくられました。法正尻遺跡は、東北地方 南部に広がる大木式土器圏に位置しますが、北陸地方 をはじめとする様々な地域の特徴をもった土器も出土 しています。これらの土器は、当時の人々が移動や交 流のネットワークをもっていたことを私たちに教えて



な土器 火焔型土器と大木式土器の 特徴を併せ持つ折衷土器。



ハっこいいな。今度、



くらしの道具

リュウリュウ

※1降々と盛り上がった線

法正尻遺跡からは、木の実などをすりつぶした道具(磨石・石皿)が多数出土しています。このほか、動物の解体や皮を加工するときに用いられた道具(石匙や掻器)が多いことも特徴的です。

一方、狩りの道具(石鏃)や木を切る道具 (磨製石斧)、土を掘る道具(打製石斧)の数は、それほど多くありません。



石匙のほとんどが他地域から運 かりったが おれた珪質頁岩と呼ばれる石か らつくられているよ!

104 号土坑出土土器



大木1a~8a 式期の磨石の名 くがこのような横長のタイプ で、大型石皿と共に使用され ていたと考えられます。



祈りの表象

法正尻遺跡では、祭祀にかかわると考えられる道具も出土しています。人々は何を想い何

を祈ったのでしょうか。



三角柱状十製品

福島県文化財センター白河館(まほろん) 開催期間 2021年1月23日(土)~ 3月28日(日)

編集・発行 (公財) 福島県文化振興財団 〒 961-0835 福島県白河市白坂一里段 86 TEL:0248-21-0700 FAX:0248-21-1075

法正尻遺跡について

法正尻遺跡は、縄文時代前期末~中期末の集落跡です。 磐梯町と猪苗代町にまたがり、北に磐梯山を望む丘の上に位置 します。磐越自動車道建設に伴い昭和63年・平成元年に発掘 調査を行いました。遺跡からは多くの竪穴住居跡や土坑^{*}、 そして多量の土器や石器などの遺物が見つかりました。

東北地方南部の縄文時代中期を考える上で貴重なものであることから、出土品のうち855点が平成2 | 年に国の重要文化財に指定されました。

※地面に掘られた穴

場所圖 磐梯町大字更科字遠平、猪苗代町大字翁沢字遠山

調査® 21,000㎡を調査(遺跡の範囲は推定約75,000㎡)

遺構* □ 竪穴住居跡 | 29軒(内 | 軒は平安時代)、土坑759基、土器埋設遺構26基、ほか

遺物*2 ほ 土器片約260,000点、石器類約3,350点、土製品及び石製品約170点

ここがスゴイ①® 遺構の数と遺物の量の多さ!

ここがスゴイ② 曜 縄文時代前期末~中期末にわたってほとんど途切れることなく人々が暮らした痕跡がある!

ここがスゴイ③☞ 様々な地域の特徴をもつ土器がまとまった状態で多く出土している!

※ | 地面に残された過去の人々の活動の痕跡 ※ 2 過去の人々がつくり、使った道具類など







遣構集由部

法正尻遺跡が最も栄えた『縄文時代中期』ってどんな時代?

Ⅰ万年間続いた縄文時代の中で、今から約5500年前~4400年前を縄文時代中期と呼びます。この時期は、東日本各地に大規模な集落が営まれました。遺跡の数も増加します。また、日本最大級の集落遺跡である青森県三内丸山遺跡*や、教科書でおなじみの火焔土器が出土した新潟県馬高遺跡なども、縄文時代中期に営まれました。土器は立体的な装飾がついたものが多くつくられ、縄文文化の最盛期とも言われる時代です。(※=内丸山遺跡は縄文時代前期中頃から)

法正尻ムラのすがた

法正尻遺跡は、磐梯山麓の起伏に富んだ 丘陵地に位置します。また、周辺にある法 正尻湿原の縄文時代の堆積物の花粉分析結 果をみると、この一帯にはコナラやケヤキ など、落葉広葉樹の豊かな森が広がってい たようです。このような環境の中で縄文人 はこの地に集落を営みました。

縄文時代中期前半は、東側の浅い窪地を 取り囲むように住居群が営まれ、縄文時代 中期後半になると、住居群は西側の台地に 移ります。

今回の展示では、縄文時代中期前半の集 落のすがたを紹介します。

右の絵は、今から約5200年前(大木 7 b 式期) の遺構から推定した集落のすが たです。

長方形の大きめの住居と円形の小さめの 住居が混在しています。

法正尻ムラのうつりかわり (縄文時代中期前半)

下の図は、法正尻遺跡(調査区)の時期 ごとの竪穴住居跡と土坑と土器埋設遺構の 配置を示したものです。

415号土坑

木はドング

住居から西に60m程離れた丘の上のフ ラスコ状土坑 (食料貯蔵用の穴) がまと まっているエリア。たくさんの土器が出 土した415号土坑もこのエリアにあり ます。住居のそばにある貯蔵穴とは別の 性格だったのかもしれません。



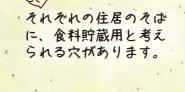
同じ軸方位で、重なり合っ ている竪穴住居跡が複数見

つかりました。 数百年に渡り、複数世帯が 同じ場所に何度も建て替え を行っていたと考えられま

415号土坑 出土土器

415号土坑 出土土器



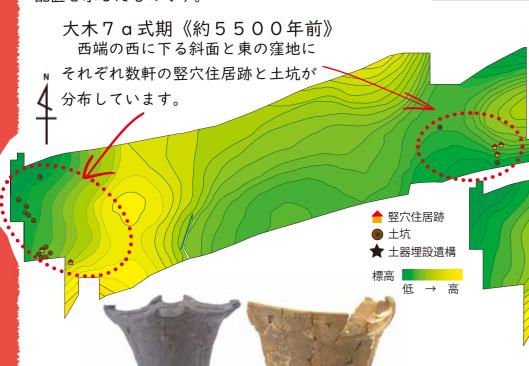


浅い穴はお墓だったのかも しれません。25号土坑が

らは副葬品と考えられる土

器が出土しています。





5.4号住居跡 出土土器

遺物包含層 出土土器

大木8 g 式期《約5000年前》 大木7b式期《約5200年前》 浅い窪地を取り囲むように、竪穴

この時期も、東側に竪穴住居跡群があります。 一方、西側には、IOOm以上の深さを持つ 住居跡と土坑(食料貯蔵用と考えら れる穴) などが います。 分布します。

